

NIKKOメッセ2025 一歩先行く未来社会のデザイン

日エグループは「世界を、強くやさしい街に。」のビジョンのもと、アスファルトプラント(AP)やコンクリートプラント(BP)など、人々の暮らしを支えるインフラや街づくりに貢献しています。

3年に一度開催される展示会「NIKKOメッセ2025」では、「一歩先行く未来社会のデザイン」をテーマに、働き方改革、DX、カーボンニュートラルといった社会課題に応える製品・技術を紹介しました。

2030年ビジョンの実現に向け、社会課題の解決を目的とした数多くの新製品が披露され、今後の成長を牽引することが期待されます。代表的な例として、災害復旧や狭小な工事現場で活用できるモバイル型バッチャープラント「ONZEMIX(オンズミックス)」、建設発生土や建設汚泥を流動性と自硬性により締固め不要の土木資材へと再生する「LIQUSOIL(リキゾイル)」、

さらに、合材出荷量やプラント数の減少、労働力不足、高温・高所での危険作業など、舗装業界が直面する課題を解決する「合材保温コンテナ(オカモチ)」を開発しました。この中でも国土交通省の調査により、国道の地下で4,739カ所の空洞が確認され、そのうち埋没リスクの高い119カ所では修繕が進められています。こうした取り組みを背景に、「LIQUSOIL」の中長期的な需要拡大が期待されます。

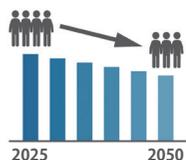
テストセンターの“タコラボ”では、コア技術を基にしたさまざまな技術開発を行う拠点として活用し、たとえば重油代替燃料バーナの研究や練り混ぜ技術の技術革新に取り組んでいきます。また、これらの取り組みは次世代のAP,BPとしての新たなプラントコンセプトを示すものでもあります。



未来型プラント

2050年の未来像

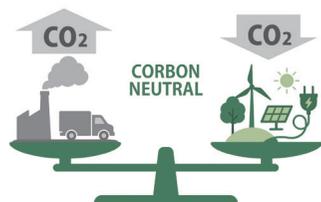
日本の人口が25%減少



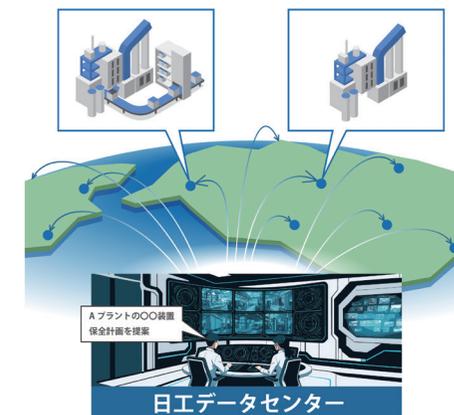
ドローンによる
物流サービス普及



2050年カーボンニュートラルの実現



遠隔自動運転



- ・セントラルプラント化で集中監視
- ・自動運転により省人化の実現
- ・計画生産により複数拠点を効率運用

小説「明日のアスファルト」に込められた 未来像



2024年春、社内で「SFプロトタイピングプロジェクト」が始動しました。

企業にはいま、リスク社会の中で変化に迅速に対応する力が求められています。生成AIの本格的な普及により技術の進展が加速するなか、これまで以上に長期的かつ地球的な視点が欠かせません。

そこで当社では、SF戦略コンサルタントの宮本道人氏（SF実装研究所代表取締役）の支援のもと、「SFプロトタイピング」の手法を活用した未来共創に取り組みました。

本プロジェクトでは、技術、営業、管理、グループ会社など多様な部門の社員がワークショップに参加し、これまでになかった道路やプラントの未来像を議論しました。未来が一部のみに独占されるのではなく、誰もがアクセスし、創り変えることができる社会を目指し、既存概念にとらわれない発想で新たなビジョンを描きました。こうした議論を通じて、一人ひとりの社員が持つ個性や創造性の重要性を再認識する機会にもなりました。

その成果は、2058年の明石を舞台にした小説『明日のアスファルト』として結実しました。物語の中では、アスファルトプラントが遊園地として生まれ変わり、熱々のアスファルトを泳ぐスポーツが登場するなど、自由な発想から生まれたユニークな未来像が描かれています。この物語のような想像力豊かなアイデアの先には、災害に強く、やさしく、そして、誰もが楽しくまちづくりに参加できる社会の姿が見えてきます。

日エグループは、当社の掲げるビジョン「世界を強く、やさしい街に。」の実現に向け、この物語を出発点に持続可能で創造的な未来を構想し続けてまいります。



アートワーク：小阪淳